

GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

株主レポート

まるべに

2024 SUMMER No.136

CONTENTS

01 社長メッセージ

02 財務ハイライト

コラム 正新和 動画で見る丸紅の企業活動

03 グループニュース

04 トピックス

Marubeni



01 MESSAGE FROM CEO 社長メッセージ

GC2024の定量目標を着実に達成し、 次の利益ステージを目指す

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

能登半島地震により被害に遭われた皆様とご家族に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、安全な生活を取り戻せることを心よりお祈り申し上げます。

2024年5月2日に2023年度連結決算を公表しました。2023年度の純利益は4,714億円となり、2月の第3四半期決算の際に公表した通期の見通し4,500億円を超過達成することができました。これを踏まえ、2023年度の1株当たり年間配当金を83円から85円に+2円増配いたしました。

2022年度から始まった中期経営戦略「GC2024」において、当社は既存事業の強化と成長投資に取り組んで参りました。これによって収益基盤は強化され、着実に収益の柱を育成・確立することができています。

2024年度の純利益見通しは前年度比+86億円増益の4,800億円としました。非資源分野の実態純利益は同比+140億円の増益を見込み、収益基盤の強化が引き続き進捗する見通しです。これを踏まえ、2024年度の1株当たり年間配当金予想を同比+5円増配の90円といたします。加えて、今回500億円を上限として自己株式の取得を実施することを決定しました。これにより、2024年度の総還元性向は42%となる見通しです。

引き続き、既存事業の成長と成長投資を通じた戦略追求により次の利益ステージを目指していきます。利益成長の結果をご覧にいれながら、株主還元についても継続的に充実していけるように、努力して参ります。

株主の皆様におかれましても、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

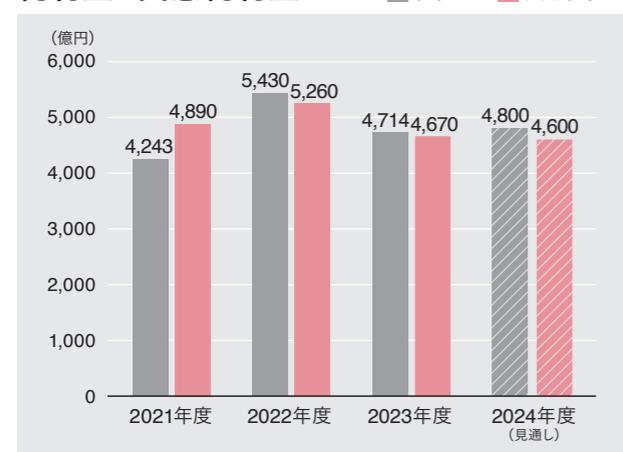
代表取締役社長 柿木真澄



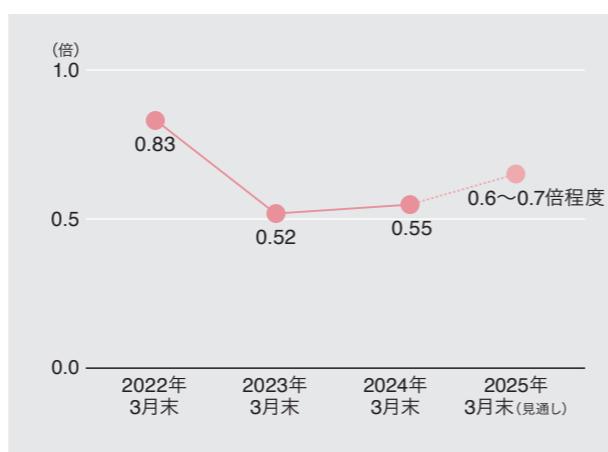
FINANCIAL HIGHLIGHT 財務ハイライト

2023年度の純利益は4,714億円、実態純利益は4,670億円となり、3年連続で4,500億円以上を達成し、従来実力値と考えていた4,000～4,500億円の収益基盤を確立することができました。さらにその内、非資源分野については実態純利益3,070億円となり、3年連続で3,000億円程度を達成しました。2024年度の見通しは純利益4,800億円、実態純利益4,600億円としています。うち非資源分野の実態純利益は3,210億円と、過去最高であった2022年度(3,210億円)と同水準です。2024年度は同分野の最高益の更新を目指して参ります。

純利益・実態純利益



ネット DE レシオ



基礎営業キャッシュ・フロー



株主還元



※純利益：親会社の所有者に帰属する当期利益 実態純利益：純利益から一過性要因を控除した概数

※2024年度見通し/2025年3月末見通し：2024年5月2日に公表した通期見通し

※基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除

※2022年度よりネット DE レシオの算出式における分母を「資本合計」から「株主資本」に変更。本資料では過年度分のネット DE レシオを置き換えて表示

更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.marubeni.com/jp/ir/finance/>



セグメント別純利益

(億円)	2022年度	2023年度	増減	主な増減内容
ライフスタイル	68	99	+31	衣料品等の取引における増益 前年度に計上した衣料品等の企画・製造・販売事業に関連する一過性損失の反動
情報ソリューション	95	78	-18	IT 関連事業の中間持株会社設立に伴う経費増加等
食料第一	116	170	+54	インスタントコーヒーの製造・販売事業の増益 即席麺等の製造・販売事業の増益 国内菓子卸事業の増益
食料第二	769	180	-589	肉牛処理加工・販売事業の減益等 Gavilon 穀物事業売却益の反動
アグリ事業	427	415	-12	農薬等の農業資材価格下落を背景とした Helena 社の減益 米国肥料卸売事業の改善
フォレストプロダクツ	△ 94	△ 142	-48	パルプ市況悪化に伴うムシパルプ事業の減益等 ベトナム段ボール原紙の製造・販売及び包装資材の販売事業における固定資産の減損損失 前年度に計上した国内洋紙製造・販売事業投資の減損損失の反動
化学品	143	70	-72	石油化学品及び無機化学品取引の減益 飼料添加剤販売事業におけるのれんの減損損失等
金属	1,994	1,635	-359	商品価格の下落に伴う豪州原料炭事業の減益等
エネルギー	387	392	+6	原油・ガス価格の下落に伴う石油・ガス開発事業の減益等 前年度に計上した石油・ガス開発事業における一過性損失の反動等
電力	400	473	+73	海外発電事業の増益等
インフラプロジェクト	88	169	+81	海外インフラ案件における一過性利益等
航空・船舶	282	264	-18	船舶市況の悪化に伴う船舶保有運航事業の減益 航空関連事業における需要回復に伴う増益
金融・リース・不動産	437	439	+1	国内不動産事業の増益 米国中古車販売金融事業の減益 米国航空機リース事業における一部ロシア向け機体の和解金受領等
建機・産機・モビリティ	238	271	+33	建設機械事業の増益
次世代事業開発	△ 51	3	+55	中東における医薬品・医療機器販売事業の増益 前年度に計上した貸倒費用の反動等
次世代コーポレート ディベロップメント	△ 20	△ 31	-11	傘下事業会社の立ち上げに伴う経費増加等
その他	151	227	+77	税金費用の改善
全社合計	5,430	4,714	-716	

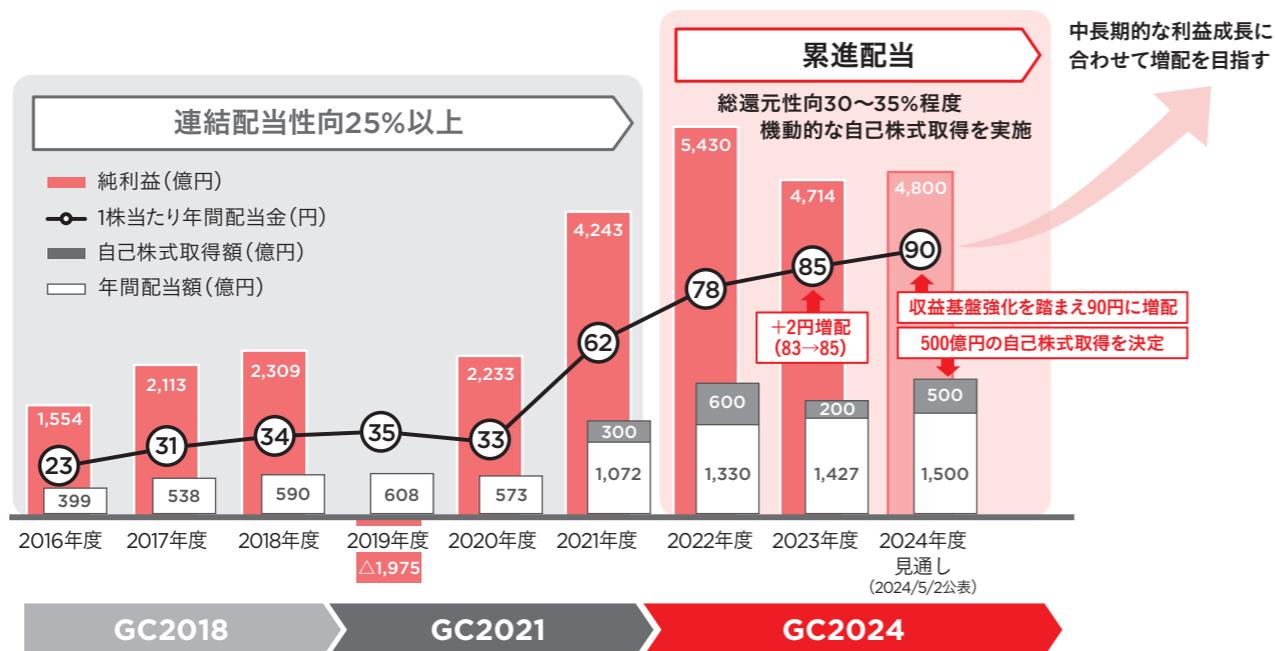
※2023年度よりオペレーティング・セグメントの「情報・物流」を「情報ソリューション」に名称変更するとともに、「ライフスタイル」の一部を「金融・リース・不動産」及び「次世代事業開発」に、「情報・物流」の一部を「次世代事業開発」に、「エネルギー」の一部を「電力」に、「次世代事業開発」の一部を「化学品」に、「その他」の一部を「情報ソリューション」に、それぞれ編入しております。これらの変更に伴い、本資料では2022年度のオペレーティング・セグメント情報を組み替えて表示しております。

中期経営戦略「GC2024」期間(2022~2024年度)の株主還元(2023年2月公表)

- 長期にわたり安定した配当を行いつつ、中長期的な利益成長により増配を目指すことを基本方針とする
- 減配しない累進配当を実施するとともに、総還元性向30~35%程度を目安として機動的に自己株式取得を行う

2023・2024年度の株主還元(2024年5月公表)

- 1株当たり年間配当金は2023年度は85円。2024年度は90円に増配
- また2024年度における500億円の自己株式取得を決定し、総還元性向の目安30~35%程度を超えて還元(総還元性向の見通し42%)



正新和

動画で見る丸紅の企業活動

当社ウェブサイトでは、事業紹介動画シリーズ『Scope』や企業CMなど、様々な動画を掲載しています。お手元のスマートフォンやタブレットで各動画のQRコードを読み込みの上、是非ご覧ください。

事業紹介動画『Scope』



Tim Hortons® Singapore (シンガポール) カフェフランチャイズ運営事業 (次世代コーポレートディベロップメント本部)



Chenya Energy (台湾) 浮体式太陽光発電事業 (電力本部)



Centinela (チリ) 銅鉱山事業 (金属本部)



Lunatus (ドバイ) 医療・ヘルスケア事業 (次世代事業開発本部)



森林資源事業(フィリピン・秋田) (フォレストプロダクツ本部)



MERRELL KOREA (韓国) コンシューマーブランド事業 (次世代事業開発本部)



企業CM『できないことは、みんなでやろう。』



「紅丸」篇



「グリーン」篇

特設サイトも併せてご覧ください



上記を含む各種動画は、当社ウェブサイト「企業広告・動画」ページからご覧いただけます。



03 Group News グループニュース(2023年10月～2024年3月)

グローバルに広がる、丸紅グループの最新トピックやプロジェクトを幅広くご紹介します。

更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.marubeni.com/jp/news/>



オランダ

化学品本部

2023.12.11リリース

欧州の大手香辛料・調味料メーカー Euroma 社の完全子会社化について

英国

電力本部

2023.10.12リリース

英国政府とのクリーンエネルギー事業の協力に関わる覚書締結について

イタリア

航空・船舶本部

2023.11.9リリース

イタリア D-Orbit 社へのリードインベスターとしての出資参画について



インド

金融・リース・不動産本部

2023.11.9リリース

インドで3件目の不動産開発事業への参画について

タイ

次世代事業開発本部

2023.10.12リリース

タイ国上場大手コスメブランド企業 Karmarts Public Company Limited への出資について



ドイツ

ライフスタイル本部

2024.2.15リリース

廃タイヤリサイクル事業の展開に向けた次世代再生カーボンブラック製造事業への出資参画について



日本

次世代事業開発本部

2023.11.28リリース

国内化粧品ブランド「OSAJI」保有会社への出資参画について



食料第一本部

2024.2.26リリース

丸紅株式会社・イオン株式会社のさらなる成長と発展に向けた戦略的パートナーシップに関する契約書締結の件

人事部

2024.3.12リリース

経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「健康経営銘柄2024」に選定(2年連続3度目)

ベトナム

次世代コーポレート ディベロップメント本部

2023.11.6リリース

ベトナム大手食品原料・機能性食品素材サプライヤー AIG Asia Ingredients Corporation への出資について



インドネシア

建機・産機・モビリティ本部

2023.11.7リリース

インドネシアにおける建設・産業用機械レンタルサービスの開始について

次世代コーポレート ディベロップメント本部

2023.11.17リリース

インドネシアの医療用消費財メーカー PT One-ject Indonesia への出資について



チリ

金属本部

2023.12.20リリース

チリ・センチネラ銅鉱山の拡張プロジェクトに関する投資意思決定について



金属本部

2023.12.20リリース

チリ・ロスペランブレス銅鉱山権益の追加取得および日本最大手の銅製錬・銅地金販売量を有するパンパシフィック・カッパー社の株式取得について





「丸紅基金」助成拡大の決定について

社会福祉法人丸紅基金（理事長：柿木真澄）は、2024年度の社会福祉助成から、助成金額を最大3億円に増額することを決定しました。

丸紅基金は1974年に丸紅の出捐により設立され、毎年総額1億円の助成を継続してきました（昨年度までの累計助成件数：2,896件、総額49億5,000万円）。助成先は、障がい者、児童・青少年、高齢者関連の施設・団体をはじめ、昨今の社会情勢を反映し、引きこもり支援、女性保護、生活困窮者支援に従事する団体や、子ども（地域）食堂、フードバンク、地域コミュニティ活動など多岐にわたります。民間基金の特質を生かし、行政の手が届きにくいと思われる案件、社会福祉の充実・向上に波及効果が期待できる先駆的・ユニークな案件には特に配慮して採択しています。助成応募件数も年々増加しており、こうした社会の要請に少しでも応えていきたいという思いから、丸紅基金設立50年の節目に助成拡大を決定したものです。今年度の助成先は10月下旬に採択予定です。

丸紅基金は、丸紅からの出捐金と丸紅基金の資産運用収入、丸紅及び丸紅グループの役員・社員・元社員の有志を会員とする募金組織「100円クラブ」からの個人寄付金、丸紅からのマッチングギフト、丸紅ギャラリー入館料等を原資としており、企業と個人が協力して支える仕組みです。今後も「人がいて、夢がある」社会の実現を目指して、助成活動を続けていきます。

<過去の助成案件事例>



障がい者就労施設の食品製造機



夕食宅配用のキッチンカー

<丸紅基金助成先活動紹介動画>



丸紅基金ウェブサイト



活動紹介動画



PICK UP



丸紅所蔵染織品コレクションの保全・継承の取り組みについて

2023年4月より、文化庁と東京都、および株式会社松鶴堂の協力の下、2020年に国の重要文化財に指定された、丸紅コレクションの一つである江戸時代中期のきもの「染分縮緬地襷菊青海波文様友禅染振袖」の修理事業を進めています。約2年間にわたる修理が完了後、丸紅ギャラリーにて一般公開する予定です。

丸紅の前身である丸紅商店では、大正時代末期から昭和時代初期にかけて、古来の染織技術を研究し、その技術を商品製作に生かすことを目的に、江戸時代を中心とした古い時代の染織品の蒐集と研究活動を積極的に行いました。こうして蒐集された染織品コレクション400点あまりが受け継がれており、これらの保全・継承の取り組みを推進しています。



染分縮緬地襷菊青海波文様友禅染振袖



修理の様子

丸紅ギャラリー 今後の企画展の予定

●2024年9月25日～10月26日：

格式の美 —丸紅コレクションの能装束—

室町時代から長い歴史を持つ我が国の伝統芸能である能楽。丸紅の前身である丸紅商店内で発足した染織品研究会「名品會」では、能装束を日本染織の頂点と位置付け、作品の蒐集をしていました。本展では、先人たちが選りすぐった江戸時代から近代の能装束の優品を紹介します。

●2024年11月26日～12月21日：

八幡垣睦子 —古裂のメタモルフォーゼ—



紅白縹段流水扇模様縫箔／江戸時代18～19世紀

PICK UP



丸紅は2023年11月に化粧品ブランド「OSAJI」に出資しました

会社概要 (2024年3月31日現在)

会社名……………丸紅株式会社 (英文: Marubeni Corporation)
 創業……………1858年5月
 設立……………1949年12月1日
 資本金……………263,599百万円

丸紅公式SNS



株式事務に関するご案内

- 未払配当金のお支払い
みずほ信託銀行・みずほ銀行
- 住所変更等の各種お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 ☎0120-288-324
 (電子提供制度専用ダイヤル) ☎0120-524-324

※証券会社に口座をお持ちの株主様は、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会……………毎年6月
 期末配当金支払主確定日…毎年3月31日
 中間配当金支払主確定日…毎年9月30日
 株主名簿管理人および
 特別口座管理機関…………みずほ信託銀行株式会社
 〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
 同事務取扱場所…………みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
 〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
 単元株式数……………100株
 上場取引所……………東京
 公告方法……………電子公告

(当社の電子公告は、当社ウェブサイトの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)
<https://www.marubeni.com/jp/koukoku.html>

証券コード……………8002
 ウェブサイト……………<https://www.marubeni.com/jp/>

株主レポート まるべに No.136 (年2回発行) 2024年6月21日発行 発行人/石田哲也
 発行/丸紅株式会社 IR・SR部 〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号



環境保全のため、環境に配慮した植物油インクで印刷しています。

将来見直しに関する注意事項:本紙に掲載されている予測や将来の見直しに関する記述等は、本紙の発行日現在において入手可能な情報やそれをもとにした当社の仮定・判断に基づくものであり、将来の業績を保證するものではありません。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があります。当社は、本紙の情報の利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本紙に掲載されている予測や将来の見直しに関する記述等についてアップデートして公表する義務を負うものではありません。